

# SMA(脊髄性筋萎縮症)をご存じですか?

からだを動かすとき、筋肉の動きは運動神経によって調節されています。SMAは、この運動神経が変化または消失していくことで、筋肉の力が弱まり、運動機能が障害される病気です。

SMAを有する患者さんの割合は10万人に1人とされています<sup>1)</sup>。

## ■SMAのタイプと症状

SMAの未治療の自然経過は、「発症する時期」と「到達できる最も高い運動機能」によって4つのタイプに分けられます。

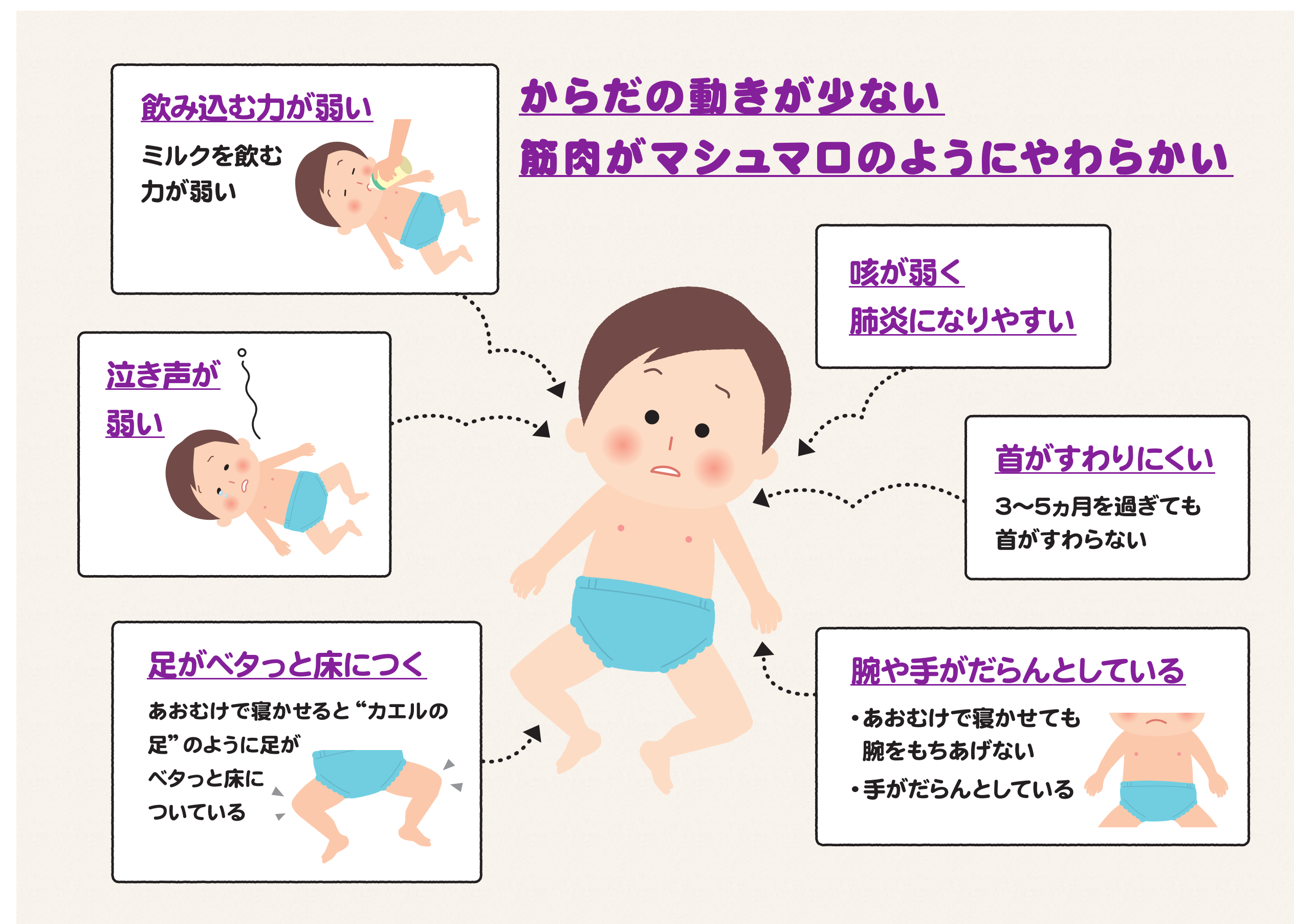
タイプ	発症の時期	到達できる最も高い運動機能
I型 (重症型)	生後 0~6カ月	「支えなしで座る」ことができない
II型 (中間型)	生後 7~18カ月	「支えなしで座る」ことはできるが、「自力で立つ」ことはできない
III型 (軽症型)	生後 18カ月以降	「ひとりで歩く」ことができる(次第に歩けなくなることがある)
IV型 (成人型)	成人 (20歳以上)	「ひとりで歩く」ことができる(症状の進行はゆっくりである)

SMAは進行性の疾患です。SMA未治療の場合、出生直後から運動神経の喪失がみられます。しかし、治療を開始した時期が早ければ早いほど、治療効果が高いことがわかっています<sup>2)</sup>。

早い段階で症状に気づき、適切な診断のもと治療を行うことが重要です。気になる場合はすぐに医師または医療従事者へ相談することをお勧めします。

## ■SMAにおける「筋緊張低下」

乳幼児期に発症するSMAで見られる症状の1つに「筋緊張低下」があります。



## SMA患者さんのご家族のお話

“情報”と“人のつながり”を通じてSMA家族を支える

SMA 家族の会  
大山有子さん

不安に感じたら、“親の勘”を信じて相談

西さんご夫婦  
3歳の息子さん、  
9か月の娘さんとともに

治療とリハビリのおかげで、楽しく暮らせる毎日に感謝

SMA 患者さん  
ご家族のお話  
佐藤さんご家族とともに

こちらに詳しく解説しています



SMAについて詳細を知りたい方は

スマートアイズ SMA

<https://smarteyes.baby/>

